

いしかり生きものかけはし座談会

議事録

日 時:令和6年8月27日(火) 15-17時

参 加:第1部:会場8名/オンライン 10 名

第2部:8名

第1部

いしかり生きものかけはし戦略の説明について(省略)

第2部:『生物多様性と〇〇〇について』

市:例えば、イベントの参加者や石狩海浜植物保護センターの来館者を見ると、生物多様性について興味がない、知らない人が多い印象を受ける。参加される子どもたちは授業で習っているが、保護者世代の30～50代の方たちは忙しいということも背景にあるが、話をしていると知らない人が多い印象。何かイベントをしても、その世代に通じないので、イベントをする前に、そういった世代への「生物多様性」の周知をしていかなければならないように感じている。

EPO:保護センターと関わってきて、海浜や石狩の自然を利用している札幌市民を含めてまだ認知が低い印象を受ける。有識者によって地域戦略の中身は決めていただき、どうアクションとして進めていくことをテーマに、お考えを伺いたい。

テーマ:

- ① 石狩市の自然で好き/魅力/自慢だと思うところ/感想
- ② どういったところを守ったほうが良いのか/事業としてこんなことをしてほしい

参加者1

テーマ①

・石狩市に自然が残っていることを知らなかった。友人からいろいろ話を聞いて知って、興味がわくようになった。

- ・野鳥が昔に比べて減っている。風車の影響だと思う。
- ・一人でもはまなすの丘公園へ見に行っていたが、風車ができてから、風車の影響があるのであまり長居できなくなった。

テーマ②

- ・野鳥が減ったのでどう守っていくか気になる。
- ・石狩にトビが多くて馬鹿にしていたが、今は減っている。

参加者2

テーマ①

- ・海浜植物保護センターで観察会に参加したのがきっかけで、自然について興味を持つようになった。
- ・石狩湾はお碗の形に見えると聞いていたけれど、実際には見えない。地図上では見えた。
- ・アカダマスツボンダケやスナジホウライタケのような珍しいキノコがみられた。
- ・今まで見ていなかったかもしれないが、石狩浜以外の自然が少なくなっているのか、鳥が石狩浜に集まっているようにも見える。
- ・浜益や石狩のいろいろな場所を歩きながら環境活動員として植生調査をしていた。

テーマ②

- ・専門家と一緒に調査をしたわけではないが、過去の資料として市に提出していた。今後、参考にして調査してほしいと思う。
- ・石狩市とボランティアの関係も問題なのではないかと思う。

EPO: 今のご意見について、市民とお互いを深めていくということだと思うが、ボランティアについては新しい世代などの参加はあるのか。

参加者2: 自分が関わっている団体では新しい人の参加はない。日中の活動になるので働

いている人の参加は難しいと思う。

EPO:ご家族でご両親がお仕事をされていると、なかなか自然に触れる時間ないとかあるかもしれませんね。

参加者3

テーマ②

・鳥の様子が変わっているというご意見を踏まえて、20年石狩浜の自然を見てきて感じることは、植物の背丈が全体的に高くなっているように感じる。砂地が見えるような場所に海浜植物が生育している環境が減少していて、アキグミや、カシワなどの低木が多くなった。それによって背の高い植物が好きな野鳥が増えている気がしている。その現象について、はっきりしたことは言えない。科学的なデータが取れたらと思うが証明はできないと思う。ただ、現状をデータとして記録を残すことは重要だと思う。科学的な知見を得て、蓄積することを紐づけるものがアクションプランだと思っている。

・世代によってベースが違うのはわかる。関わっているハマナス再生プロジェクトは、事業者中心で運営している。事業者が中心で会員となり活動している。市民の会員参加も可としているが、会員になることはまずない。ただ、商品やイベントを通じて、企業が知って、事業につなげて、商品から一般市民に広く普及していることもある。普及啓発の新しい形として、企業や事業者から一般市民へもあると感じている。

EPO:市民が自然に興味のないことが多いが、商品を通じて生物多様性を知る機会となっているということか。

市民4:矛先が多様化していると思う。自然保護に関心がなくても、商品から知ってもらうことにもつながるようになった。

参加者4

・本日は意見を聞く場としてきたので、意見は特段ない。

EPO:感想は？

参加者4:生物多様性はとても難しいと思う。生物とひとくくりにしても、植物も動物も入る。海岸一つとっても。海の中にいる植物から、海浜地の植物、野鳥などすべてが含まれる。多様な中で、保護センターは主として海浜植物の普及啓発に携わっている。石狩市として石狩海浜植物保護センターを運営するのも大変だが、それよりも広い生物多様性の保全はもっと大変だと感じる。保護センターは、お客さんは意外と市外、道外もいる。貴重な自然なので、どうやって広めていくか今後考えていけないといけな。PR をしていかなきゃいけない。

EPO:道外のお客さんが多いとあるが、こういった PR する工夫をしているのか。

参加者4:それを知りたくて来た。最近、野鳥(アカモズ)で来館する人が多い。希少種なのでカメラマンが殺到する可能性があるので大きく、PR はできない。PR とは関係ないが貴重な野鳥がいることが知られてきているような気がする。ホームページや SNS で発信するのが重要かなと思う。

EPO:海浜植物から生物多様性を結び付けたということだが、野鳥で来館する方が、アカモズ目当てで来たが、石狩浜の自然を知ってもらいたいと思う。

参加者5

テーマ①

・札幌市から近い

・市内にこんなに希少な生き物がいるのは知らなかった。外来種の昆虫や植物、エゾシカの問題などについて興味を持った。エゾシカは直接人体への影響は確かにそこまでないが、海浜植物のエゾスカシユリまで食べるという話もあったので、このままにしておくと、海浜植物も食べられるなどの影響を聞いて、増えすぎて困る生き物に対してどうしたらいいのかという問題を知れた。

テーマ②

・簡単に駆除できる外来の植物や昆虫がいたら、体験イベントがあったら参加しやすいのでは。それらによって希少な生き物が減っていくことに結び付くのではないか。

EPO:ハマナス再生プロジェクトでもありましたが、関わりしろ、参加のできる余白はどう作れるかはテーマになりそうですね。

参加者6

テーマ①

・自然は好きだけど、深く知らない。マニアックな印象を受ける。しかし、この地域戦略は専門的な用語が多すぎて何を讀んだらよいかわからない。なぜ生物多様性を守らなければならないのかが分らない。自分の好きな、生活しているなどの私事に落とし込めてこそ次につながるのでは。生物多様性とは何か、なぜやらなきゃいけないのかということがわかるようになったらよいと思う。

テーマ②

・一度、はまなすの丘公園をガイドしてもらったことがある。それをしてもらったことで、植物に名前があって、植物と動物がつながっていることが分かった。が、次につながらない。自分事にどうしてもつながらない。石狩浜のエリアについて、観光や自然保護など全体として考えられていないところが残念だと思う。

EPO:入口からあまり入れないようになっているということか。全体として導線があればよいということか？

参加者6:ヴィジターまでの周遊も全体がつながっていないと思っている そこら周辺環境

を含めて一体化の動きになれば。

参加者7

テーマ①

- ・保護センターのボランティア団体として活動。
- ・自然を見るようになり、知るようになった。

テーマ②

- ・なぜ、生物多様性の戦略を作ることになったのか。市の方向性と合っていないのではないか
- ・海岸林を保護林に指定するという話が出ているが、理由としては生物多様性があるからと聞いている。林野庁が価値を認めたと思っているが、石狩市として価値をどこまで把握しているのか気になる。議事録を見ていると、風車のこともあるので、境界線についてどうするか書かれている。その話が出てきているということは、石狩市に相当の風車を建てたいということで話が来ているのではないか。
- ・アカモズの問題も有識者は石狩市にいたことがわかっていた。一般市民は知らなかった。どんどん数が減っている。民有林も切られている。守られる環境になっていない。アカモズアクションプランが作られてもいなくなると思っている。
- ・市民グループが集まって石狩海岸を北海道遺産にしようと思い応募した。審査のところで聞かれたのは、市民だけではなく自治体も関わらなくてはならない。自治体が本当に守る気はあるのか。
- ・本町の振興についても、寂れていく一方。本町や石狩浜のことはどうでもいいと思っているように思える。諦めたくはないので、何とかしたい。しかし、アカモズも守れないし、アズマヒキガエルもいなくならないと思うし、再エネだらけになると思っている。守れないと思っている。
- ・戦略については方向性を示しているが、アクションプランの方で計画性が少し難しいのではと感じるということでしょうか。
- ・市民にどうしてほしいか書いていない。何にも伝わらない。

EPO:戦略についてはこうなるといいなという方向性、アクションとして難しいということか。

参加者7:地域戦略を読んでも市民に何をしてほしいかわからない。

【自然保護課】

・本町の観光関係の話をすると、過去はかなりゴミも多く、海浜も守られていなかった。ゴミや、自然保護の担当が出てくことで保全が進むようになった。単発的なイベントの参加はしてもらえるかもしれないが、長期的に関わるようなことは少ないかもしれない。

・地域戦略が生物多様性の方向性となって、今まで方針なしに進めていたものが定まった目標を向いた点はよかったのではないかとと思っている。

【EPO】

・話の中から出た課題意識のある部分についてホワイトボードに記載

・資金の部分

・専門家だけの見解では問題がある

・現場の保全とボランティアとの関係。

・自分事への落とし込み方

・SNS などを通じてどう発信していくか。

参加者8

テーマ①

・2018 年から環境調査が始まった時から、調査に関わっています。私は昆虫が専門。特

に昆虫はマニアック。

テーマ①

・石狩市の昆虫の全体数ということで資料 6 ページに1,310 種掲載している。数としては北海道の 1/10 くらいの発見数なので、多くはない。他の調査データなどを集めると石狩市には3, 000種くらい名前があがっている。

・皆さんのお話から石狩浜という言葉がよく出てくる。私は小さいころから、石狩に昆虫を採りに来て、カシワ林でキタアカシジミ、ミドリシジミなどを採っていた。卵を採って、育てた昆虫の標本を作っていた。もちろんエゾアカヤマアリの存在も有名。

・今回の調査は浜益からスタートした。50年前から見つけていたオオムラサキ。マニアな人は捕っていたが、地元の方は見たことなかった。オオムラサキは種としては東南アジア等にもいるが北海道内ではそんなたくさんいるわけではない。エゾエノキは函館とかにもあるが、オオムラサキはいない。

・P44 に指標種としてオオムラサキも上げているが、ヒメギフチョウも見してほしい。ヒメギフチョウもオオムラサキと同じように隔離分布していて、食草のオクエゾサイシンは全道にあるのに、ヒメギフチョウはいない。そういったマニアックなことですが、ぜひ知ってほしい。知る機会を確保することは必要。オオムラサキも地元の一部の方だが、守りたいと思っているような流れになっている。

・マニアックな生き物が多いが、そういった生き物がいるということが石狩の生物多様性が豊かであることが出ている。

参加者9

テーマ①

・生物多様性の保全の理由を書かずともわかるような状況にしたい。知ると楽しくなる。その部分をもっと広げたい。

・石狩市が細長いことが自慢。石狩浜も大切だけど、浜益の里山風景もすごい。環境の要素が多様。一つの市で砂浜、岩礁などこんなに多様な環境をもっているのは貴重。文化と違って自然は残されないこともあるが、石狩市民ももちろんだが、北海道の宝としてももの残したい。

テーマ②

・厚田、浜益の環境を守れるような内容、保護区だけではなく、それ以外の環境が守れるような地域戦略を作りたいと思っている。

・もうひと押ししたいのは、海。政策として書きにくいのはわかるが、石狩市の生物多様性を守るために海について書いてもよいのではないか。海鳥で有名な天売の鳥が、浜益に来たりしている。天売の海鳥を守るためには浜益の海を守らなければいけない。海だけではなく、湿地も大事だと思うが、札幌市民のためにもそういった景観も保全していく必要があると思う。

・石狩市環境審議員をしていた中で、環境審議のほとんどが風発の話だった。石狩市の環境に関する現状と課題は風発が出てくるはず。それでも、よくも悪くも知見はたまっているはず。ただ、ゾーニングマップに活用もまだ不十分だと思うので、活用についても考えてはどうかと思う。また、太陽光発電もどんどん増えると思う。厚田・浜益は特に増えると思う。タンチョウの話を書くのであれば、太陽光への危機意識を入れてはと思う。生物多様性を主にして、もう少し再生可能エネルギーとの問題について書いてもよいのではないだろうか。

テーマ『他の方から聞いて踏まえて』

EPO:他の方の意見を聞いてどういったことを思ったか。南北に長い特徴から、自然の環境の豊かである話、生物多様性を全て理解するのは難しいので、鳥や植物、昆虫などの、たくさんある知識やすごいがどこか引っかかって興味を持つような入口も石狩市ならではののではないかな。あとは、風発の影響から入るなども。それらのテーマを踏まえて、どう企画をねるかが次に続いていくと思います。

・風力が入ってくると思うのでやりにくいとは思いますが、ぜひ厚田、浜益の自然について守ってほしい。

・太陽光パネル、風車など増えないでほしい。

・南北の地図についてもう少ししてほしい。石狩湾の半分くらいが石狩市にあるということも見えるようにしてほしい。

・マニアック、私事になってないという意見はあるが、その点を踏まえて子ども向けに活動している方もいる。その人たちの意見も聞きたい。今の学校は WEB など活用している。教育として環境問題について子どもたちはわかっているので、ポータルサイトの使い方などももう少しできると思う。

・生物多様性カードのような配布はどうか。QR で動画を見られたら理解が深まるのではないかな。

・野生生物系のゲームは環境省でも開発

・暑寒別天売焼尻国定公園があるのに、何も活用されていない。

・石狩の場合はタンチョウの食害問題よりも、タンチョウが生きていける湿地再生事業のほうを検討してもよいのでは。

・市民参加のやり方。他市町村を参考にしてもよいと思う。

・地元の方が守っている背景になればと思う

・保護区になっていない場所を OECM/自然共生サイトとして登録して、守っていくという動きが大事。それらを進めるには国、道や企業に対してどうやって行くのか、具体的に考えていく余地はあるのか。

➡他部署にまたがるものについては調整が必要。戦略を根拠に事業を進めていけたらと思う。(市)

・今回の意見については反映されないのか。

➡前回のパブリックコメントで回答したような意見については、重複するような記載は難しい。事業に反映させていく。(市)